別添

「地域リハビリテーション出前講座」講座内容例

・内容例をもとに、詳細については申込校の希望に基づき、講師と協議のうえ内容を調整。
・対面方式を想定した内容のため、オンライン方式の場合は内容等ご相談ください。

【例】　車椅子利用者が困っていたら？？　想定実施先：小学校

趣旨	車椅子利用者を例として、障害のある人や高齢者との接し方や環境の在り方の一例を理解します。
内容	体育館や校庭、昇降口等で車椅子の自走体験と押し方の体験をし、児童同士で自分ならどんな時にどのような手助けを、また、どんな声掛けをしてもらえたら良いか考えてもらいます。 さらに、高齢者や車椅子利用者が学校を利用する場合に、どんな工夫があれば利用しやすいのかを、体験を通して感じた事をもとに考えてもらいます
必要物品	車椅子（4 名に 1 台程度）
対応人数	40 名以内。それ以上の場合は要相談
時間数	基本 1 単位時間。大人数の場合や内容により連続した 2 単位時間以上の時間が必要な場合があるため、申込校の希望をもとに講師と要相談 ＜相談が必要な例＞ ・100 名で車椅子体験を実施 ・車椅子体験とグループワークを実施　等
その他	車椅子については、地元の社会福祉協議会などに問い合わせてご準備ください。 実施場所などについて事前に協議をお願いします。 事前学習として、車椅子利用者が学校を利用する場合に困りそうな段差がどこにあるか、どのようなことに不自由を感じるかを児童に考えてもらう機会を作っていただけると広がりができます。

【例】リハビリテーションに関わる仕事を知ろう　想定実施先：小学校

趣旨	体験を通して、リハビリテーションに関わる仕事（主に、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）を知る。
内容	当日協力が得られる職種により体験の内容を検討します。 一例として… 理学療法士：身体の動かし方（立ち上がりや歩行介助、等） 作業療法士：着替えや食事動作の動作・支援方法、認知症に関すること、等 言語聴覚士：コミュニケーションの取り方や飲み込み、等 この他、上記専門職が働いている場面の動画等を視聴してもらうこともあります。
必要物品	関わる職種や体験内容で異なりますので、事前協議をお願いします。
対応人数	40 名以内
時間数	体験内容によっては 1 時限でも可。応相談
その他	実施場所などについても事前に協議をお願いします。

別添

【例】　小学生がつくる地域の健康　想定実施先：小学校

趣旨	児童が高齢者の健康づくりを担える可能性があることをご存知でしょうか？ 本講座では、災害時の避難所支援を一例として、児童が高齢者の健康づくりを担える方法をお伝えします。 大きな災害の後、小学校などに避難されてきた高齢者の健康課題として、日常生活の役割や交流が寸断され、生活が不活発になることで発症する「エコノミークラス症候群」があり、最悪死亡につながってしまいます。 東日本や熊本の震災では、児童や生徒が避難所で高齢者への炊き出しの配膳や避難所の掃除等をおこない、高齢者に喜ばれていたという報道がありました。この時に「お世話」だけではなく、児童や生徒が高齢者と「一緒に何かする」につながると、高齢者の生活が活発になり、エコノミークラス症候群を予防することができます。 そのためには、普段から児童が高齢者への声かけの方法やみんなで一緒にできる簡単な体操を知っていることが必要です。 病院や施設で高齢者のリハビリを担当している理学療法士・作業療法士・言語聴覚士（リハビリテーション専門職）は、高齢者への声かけやエコノミークラス症候群の予防のノウハウを熟知しています。 リハビリテーション専門職と一緒に児童が高齢者の健康づくりを担い、普段から多世代交流ができる地域づくりを展開してみませんか。
内容	下記内容を基本として実施予定 ①リハビリテーション、リハビリテーション専門職の説明 ②高齢者の身体とコミュニケーション能力の特徴と声掛け方法について ③エコノミークラス症候群予防の説明と予防体操の説明 ④高齢者への声掛けの工夫と実践（グループワークとロールプレイ） ⑤まとめ ②③④の詳細については、申込校の要望や講師の専門分野により協議の上相談させていただきます。
必要物品	特になし（実施内容に応じて講師と要相談）
対応人数	40 名以内。それ以上の場合は要相談
時間数	基本 1 単位時間。講師と要相談
その他	事前学習として、高齢者の身体機能や視力・聴覚などの特徴を調べていただく機会を作っていただけると授業の理解が深まります。

【例】仕事を知ることから、リハビリテーションを理解しよう　想定実施先：中学校　高等学校

趣旨	リハビリテーションを深く理解するために、そこに携わる職業を学びます。 本講座では、ケガや病気などにより心身に障害のある人の社会参加・社会復帰などの「全人的な復権」を目指すリハビリテーションについて知り、そこに携わる職業を理解することで将来の職業選択の幅を拡げることを目的とします。 リハビリテーションに主に携わる理学療法士や作業療法士、言語聴覚士を例として、その仕事内容ややりがい、資格取得に関する講義を行います。 ・理学療法士：立つ・歩く・走るなど人の基本的な動作能力の改善を目指して、運動療法や物理療法などを行う身体づくりと動作の専門家 ・作業療法士：食べること、お風呂に入ることや趣味活動など日々の何気ない”作業”を通じて、心と身体にアプローチする専門家 ・言語聴覚士：日常生活で欠かすことのできない、“ことば”“きこえ”などのコミュニケーションや嚥下（飲み込み）の専門家
内容	実施校の授業のねらいや希望をもとに、授業内容を決定します。 座学・体験を組み合わせた授業内容で構成予定です。 授業進め方例） １）理学療法士、作業療法士、言語聴覚士とは？ 　それぞれの職業の紹介、仕事内容、やりがい、資格取得までの流れなどを学びます。 ２）理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の仕事の実際 例）・各職業の仕事に関する体験 ・車椅子体験を通じた職業の理解 ・障害者疑似体験を通じた職業の理解 ３）まとめ ※講師の確保状況により実施できる内容が一部異なります。
必要物品	授業内容により講師と打ち合わせ　例）車椅子、障害者疑似体験セットなど
対応人数	実施校の希望にそって対応。単独のクラス、複数クラスでの実施も可能（内容、人数により要相談）
時間数	各学校の授業時間に準じます。2 コマ続きの授業も可能（要相談）